

ブナ林の恵み・カンナ流込田の米とそば

ながしこみ だ

ブナ林の恵みなど、生物多様性が私たちにもたらす恩恵（生態系サービス）は、次世代へ、さらに将来の世代にわたって、受け継がれなければなりません。

比和地域では、鉄穴流しの跡地を水田にした「カンナ流込田※注1」で米やそばなどを作っています。農業を中心とする地産地消の取組みは、その恩恵を持続的に受けられる仕組みづくりの一つと考えています。

■そば打ち実演と ひんやりそばの実食会

○ と き / 2020年(R2年)

8月1日、8日、22日、29日の土曜日

計4回（1回20食限定、1食660円）

* 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては中止

- ・そば打ち実演 午前11時～12時頃
 - ・そばの実食会 午前11時半頃～午後2時
- *ただし、20食になった時点で終了

○ ところ /

庄原市自然とやすらぎの里宿泊研修施設かさべるで内
お食事処しごんぼ ☎ 0824 (85) 2226



地域の方のそば打ち実演



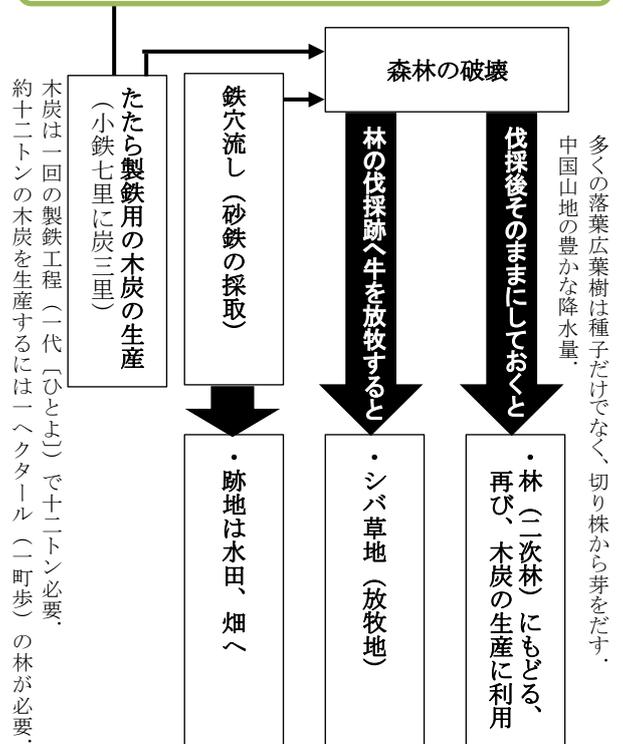
冷たいダシ汁のひんやりそば1食660円

庄原市自然とやすらぎの里宿泊研修施設
「かさべるで」 ☎ 0824 (85) 2230

〒727-0301 広島県庄原市比和町比和 165-1

*庄原 IC・高野 IC から車で約30分
*連続して3泊以上は割引があります

ブナ林の恵み：①たたら製鉄を支えたブナ林



ブナ林の恵み：②環境資源としての役割

- ・緑のダム（水を確保し、水質を守る）
- ・空気をきれいに、そして、二酸化炭素（CO₂）を吸収
- ・災害から国土を守る（洪水の調整、山くずれを防ぐ）
- ・保健・休養のはたらき

民俗学者 ^{みやもとつねいち} 宮本常一 氏の足跡

1958年（昭和33年）、宮本常一氏は広島県文化財保護委員会専門委員に就任され、翌年の6月、文化財調査のために比和へ来訪されました。この時、宮本氏は里山を歩いた記録として花田植と太鼓、石垣と木橋、農家、牛、棚田、カンナ流込田など、80枚程の写真撮影や聞きとりを行っています。

その時調査された花田植は、1971年（昭和46年）に、「供養田植」として広島県無形民俗文化財の指定を受けました。

※注1：宮本常一氏が比和への来訪時、鉄穴流しの跡地の一部の水田を、「棚田 カンナ流込田」として記録していることから、「カンナ流込田」の表現を使用しています。